



島山さんと十倉さん
(NPO法人丹波グリーンパートナー)

2人が所属するNPO法人丹波グリーンパートナーとは



薪ストーブの説明をする十倉隊員

森などの地域資源を見直し、共生する地域づくりをサポートする団体です。森づくりの相談から、森の手入れによって収入が得られる仕組みづくり(木の駅プロジェクト)、さらには木材を薪などに商品化し販売するなど、幅広く手掛けます。十倉隊員は薪利用拡大のため、薪ストーブを絶賛販売中。

2人がサポートする木の駅プロジェクトとは



島山隊員による安全講習のようす

市民参加型の森づくりプロジェクトで、森の所有者と出荷者(森づくりの作業をする人)をつないで、森の管理をサポートします。島山隊員は森づくりについての相談業務や伐採などの作業に関する安全講習、木の出荷(搬出)場の整備や買い取りも行っています。

木の駅プロジェクトのサイトはこちら (<http://kinoeki.grenpa.org/>) →



丹波の森づくりに奮闘中
木の駅プロジェクトのことを
知ってほしい！



とくらまつお
十倉 哲生さん
隊員歴7カ月
Uターン(氷上地域)

薪ストーブ絶賛販売中！
エネルギーと教育で地域に
貢献できる人になりたい



おおくほせいら
大々保 省良さん
隊員歴1年6カ月
Iターン(大分県)

下を向いて歩こう！
身近にあるものに興味をも
てる人を増やしたい



しまやましようじ
島山 昌二さん
隊員歴5カ月
Iターン(京都市)

丹波は本物がたくさん
丹波の生活様式をまるごと
ブランド化したい！



なががわ
中川 ミミさん
隊員歴1カ月
Uターン(青垣地域)

これまでのキャリアを生かし
て地域に貢献したい
人の流れをデザインしたい！



たかぎりえ
高木 理恵さん
隊員歴3カ月
Iターン(大阪市)

中川 私らのミッションは空き家の
利活用による移住・定住促進
です。現在は、空き家活用のた
めの新事業「住まいるバンク」
の運営をしています。以前は、
住宅問題から地域課題を解決す
る国際NGOで、解決に必要な
人や資金を動かす仕事をしてい
ました。前職のキャリアを存分

に生かして働いています。
高木 市の観光や特産品の「魅
力発掘・研磨・発信」と「都市
との交流イベント運営」が私の
ミッションです。以前はアパレ
ル関係で働いていて、企画・開
発から販売までのすべてを手掛
けていました。その経験を生か
して、丹波の魅力を発信する生

境パトロールで、木と自然に関
わる仕事を続けたくて地域おこ
し協力隊になりました。

十倉 僕の仕事は、前職も今も
変わらず営業です。変わったの
は提案する商品です。現在販売
しているのは、薪ボイラー・ス
トープ。島山さんと一緒に「木
の駅プロジェクト」で集まった
木を薪に加工し、その販路を開
拓・拡大することで木材の地域
循環をめざします。市役所(氷
上庁舎玄関)に薪ストーブが設
置されています。まずは体感を。
中川 早速はじまりました、十
倉君の営業トーク。本当に、1
日中営業してるよね。
十倉 会話はすべて営業のチャ
ンスだと思っています。
大久保 たくましすぎる。

special talk

地域おこし協力隊 全員集合！

特別対談

みたい！しりたい！ 地域おこし協力隊

「地域おこし協力隊って？」「仕事内容は？」

丹波市が抱える課題を解決すべく、現在5人の地域おこし協力隊が活躍中です。聞きなじみのない地域おこし協力隊の仕事内容やそれぞれのミッション(役割)とその先の展望を語ってもらいます。

5人の人柄を表すような、終始明るく楽しいスペシャルトークです。



平成21年4月にはじまった「地域おこし協力隊」。人口減少や高齢化が進む地方で、さまざまな分野の地域おこしを担う人材を都会から募る制度です。また、協力隊の定住により地域力の維持・強化を図ります。



現在、全国444自治体で1,511人の地域おこし協力隊が活躍中(平成27年3月末時点)。隊員の約8割が20～30代で、活動終了後に約6割が活動地周辺に定住しています。

chapter 2 現在の仕事

私は、今コレをがんばってます！

島山 木の駅プロジェクトでの主な業務は、森林所有者から森の手入れについて相談を受けたり、木の出荷希望者のサポートをすることです。森の中で安全に作業してもらえように、安全講習や作業に必要な道具の使い方の実習もしています。

十倉 僕は木の駅プロジェクトで出荷された木の商品化や販売を担っています。まずは薪として商品化予定です。薪を利用する方のニーズに合わせるため、その規格や加工方法を検討中です。化石燃料からCO₂を出さないクリーンエネルギーへの転換促進と薪使用量拡大のため、薪ボイラー・ストーブの販売もしています。気軽に声をかけてください。

中川 さすが十倉君。しっかり営業が入った。私は「住まいるバンク」という市内にあ

る「貸したい・売りたい」空き家物件情報を集めて、移住希望者に情報提供やマッチングを行うシステムの運営をしています。専用サイトが11月30日にオープンし、随時空き家の調査・登録をしています。空き家をお持ちのみなさん、一度ご相談ください。

大久保 ミミさんまで。僕も見習って宣伝を兼ねて仕事の紹介をさせてもらいます。現在、ちーさんの館では丹波竜の全身の復元骨格の展示に取り組んでいます。来年の春頃の展示開始をめざし、館内のレイアウトなどの計画をして



います。今にも動きだしそうな迫力ある復元骨格の展示をお楽しみに。

高木 私は丹波の魅力の発掘や地域のサポートなどを行っています。観光やまちづくりを考える座談会などに参加し、情報発信方法もアドバイスしています。今後は、丹波の魅力あふれる特産物などを商品化したいと思っていますので、これぞと思うものをご存じの方は高木まで。

島山 僕も営業させてください。木の駅に木の出荷をよろしくお願いします。

chapter 3 今後の展望

〜ミッションのその先〜

大久保 僕のめざすゴール、下を向いて歩こう”について説明する時がやってきました。

十倉 存分に語ってください。

大久保 では、僕は、恐竜を「地域教育教材」と考えています。丹波竜という有名な教材をきっかけに地域や自分の身近なことに興味をもつ人を増やしたい。知ろうとしなければ、1億1千万年前の地層もただの地面だし、地域の地形を知らなければ、災害の時に安全に避難することも難しい。自分の足元を見つめる作業を“下を向いて歩こう”に込めています。



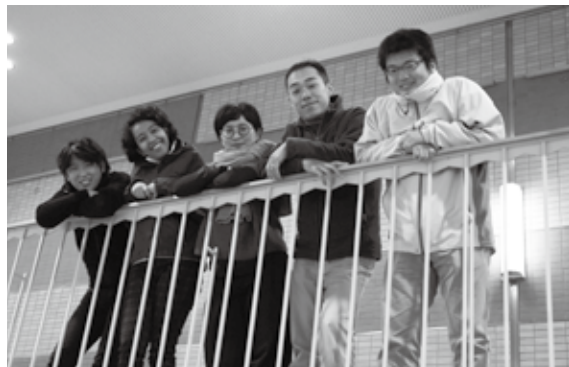
高木 私も身近なものに価値があることに気が付いてほしいです。本物・おもしろいものが落ちているのに、地元の人しか知らないなんてもったいない。丹波の衣食住、生活様式をまるごとブランド化できればと思っています。

中川 私は人の流れをデザインしたい。移住・定住の促進は必要だけれど、ただ来てくださじやなくて戦略を立てて人の流れをつくりたい。丹波はこういうまちになりたいので、「こういう人」に来てほしい、だからこういう方法でPRをします、という具合で。

島山 僕は森をなんとかしなければという強い気持ちでがんばっている人を応援したいです。木の駅プロジェクトだけでなく、広く丹波の森づくりが進んでいくようにサポートができればと考えています。

十倉 仕事はもちろんですが、僕は教育でも地域に貢献したいと思っています。地域の大人の一人として、高校を卒業して地元を離れる多くの子どもたちが少しでもスムーズに社会に出られるようサポートをしたいと思っています。

〇終わりに
それぞれに市の課題を解決するため奮闘している地域おこし協力隊のみなさん。広報たんばは今後もみなさんの活動を追いかけます。



体験学習やワークショップの講師をしています！



大久保隊員の化石発掘方法や化石発見のコツなど楽しい解説付きで大人も楽しめます。カエル化石の貴重さなどの説明には驚きの声が上がりました。

観光・まちづくりを考える座談会に参加！



観光名所や祭りのPR方法などを外からの目線で話す高木隊員。情報を届けた人に合わせた宣伝方法の重要性などを説明しました。

空き家活用事業
住まいるバンク始動！



中川隊員の奮闘が実り、専用サイトが11月30日にオープン。市内の「売りたい・貸したい」空き家物件情報を集め、移住・定住者への情報提供やマッチングを行います。(http://teiju.info/housing/)

地域おこし協力隊
奮闘記
No.2



中川さん
空き家の利活用



大久保さん
恐竜を活用したまちづくり



高木さん
市の魅力発掘・発信